

Exploratory Research ASEAN 日本人起業家研究
 一起業家精神・海外志向減退に対する問題提起からー
 An Exploratory Research on Japanese Entrepreneur in ASEAN
 -against the declining both entrepreneur spirits and global expansion spirits in Japan-

本研究「Exploratory Research ASEAN 日本人起業家研究」では、東南アジアの日本人起業家が、煩悶苦闘の末「イノベーション」を起こして成功し、起業し・グローバル環境下で経営を行っている実態を調査研究する。

失われた20年で自信を喪失した日本に対し、東南アジアにおいて、試行錯誤で活路を切り開く日本人起業家たちの実証研究をすることによって、

- ① 希望を失いがちな学生、
- ② イノベーティブな経営ができない企業

に対して重要な示唆を得ることを主眼としている。

研究の教育・学術的背景

大学の数百人の教室で、生徒に「将来海外で頑張りたい人はいますか?」「将来事業を起こして起業してみたい人はいますか?」と問うたところ、手を挙げる大学生は殆どいない。この現状を見て、「彼らをモチベートすることができるのは何か」ということを自身に問うた時に、本調査研究の実現を志した。このように若者の起業家精神離れ(日経新聞 2013,片岡・齋藤他 2015)、海外離れ(日本旅行業協会 2015)が指摘される中、本研究は、学生を活性化し、「世界で戦える学生」を育てる上で重要な示唆を提言できる。さらに、

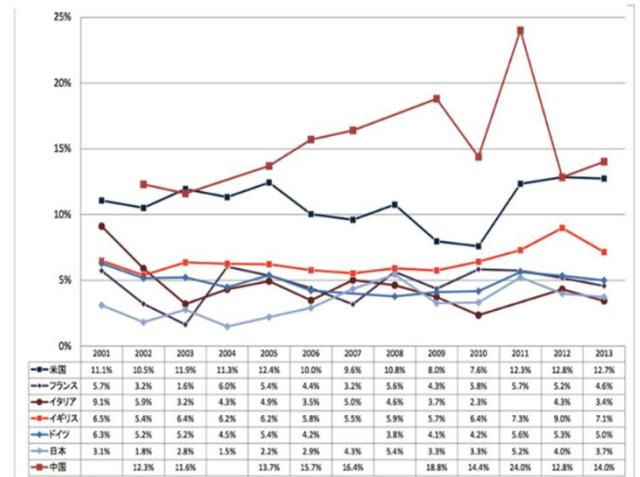
- 1) 「井の中の蛙状態で海外進出できない企業の経営者」、
- 2) 「アイデアはあるものの起業できないビジネスマン」、
- 3) 「会社の閉塞感の中で新事業を起こせない経営幹部」

等にも有益な示唆を提言できる。

本研究者のパイロット研究によれば、従来研究の対象である日本の経営者や、海外駐在員に比べ、日本人起業家は、

- a) 海外という非常に厳しい経営環境下において、
- b) 日本では想定できないような様々な困難に直面し、
- c) 試行錯誤の末問題解決し、同時に

日本の起業活動指数TEAは、世界最低レベル



(出典)GEM(グローバル・アントレプレナーシップ・モニター)調査

d)東南アジア現地の経営環境を活かした様々なイノベーションを巻き起こし、現在の地位を築いている。

このような、東南アジアの日本人起業家の問題解決とイノベーションに関する包括的、体系的な研究は、学術的にも、日本企業、学生にとっても重要な示唆が得られる。

問題提起

「起業家革命は米国経済を牽引する」(ウィルソン・ハーレル 2006)とあるが、国の成長率とその国の起業率(開業率)には明らかな相関があり(松重 2016)、我が国の失われた 20 年を回復するには起業家の息吹が不可欠である。しかしながら、

GEM(グローバル・アントレプレナーシップ・モニター)調査(磯部・矢作 2011)によれば、総合起業活動

指数 TEA に関して、日本は、米国の半分以下で、世界でも極端に低い。日本の起業活動率の推移は、リーマンショック時に多少上がったものの主要 6 か国の中でも長期低迷している。

また、年齢構成でも起業家も起業希望者も 29 歳以下比率減少と若い世代の起業へのモチベーションが極めて低い。さらに、国際志向性に関しても、海外出国日本人は、停滞から、減少に転じた。海外志望の学生は減少傾向にある。これらは、日本の失われた 20 年の元凶ともいえる問題点の一つである。

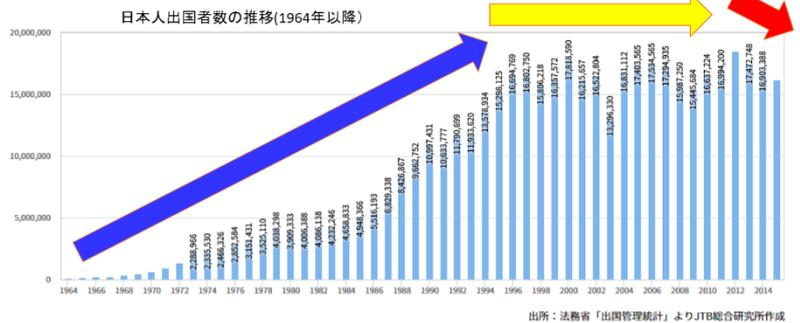
先行者研究

日本では、起業家精神に関する学問分野がまだ体系化されておらず(中島 2012)学術的な遅れも目立つ。また、東南アジアの日本人起業家等による実証的な研究は少ない。東南アジア日本人起業家のイノベーションの先行者研究も然りである。本東南アジアの日本人起業家の体系的な質的実証研究はこれからの時代を切り開く重要な分野にもかかわらず十分な研究がなされておらず、学術的な貢献は大である。

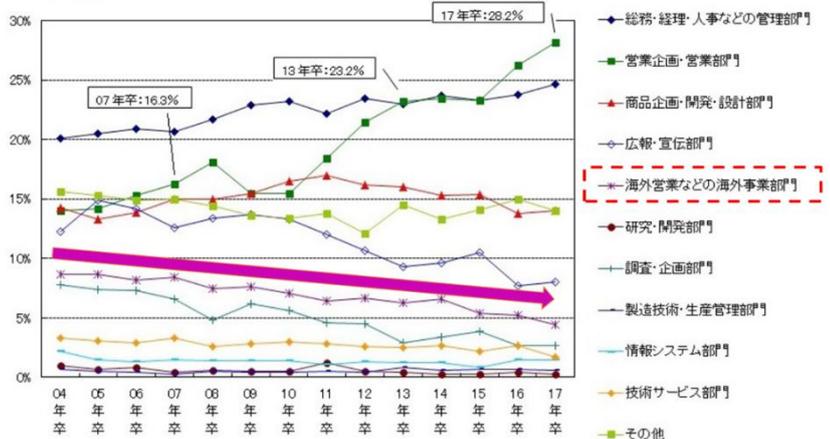
起業家も起業希望者も若者(29歳以下)比率減少



日本の海外出国人数は長期停滞から減少へ



海外志望の学生は年々減少傾向にある



調査研究方法論

本研究では、下記2点の理由により、事例研究を元にした仮説構築型の研究を行う

第1にまだ明らかでない現象を出発点として探索的に検討を開始することで、事例研究は新規性の高い理論を構築するのに適切な手法だからである。事例研究は、このような新規理論を生み出す可能性が高い。(Eizenhardt, 1989)。

第2に、本研究は、データの検討を通じて理論の構築を徐々に行っていく手法を採用する。事例研究は研究の途中で修正を繰り返すことによって、徐々に問題関心や仮説の精緻化を図ることができる。(Grazer and Strauss, 1967 ; Eizenhardt, 1989)。

研究内容

本研究では、実際に日本人起業家がどのように事業を立ち上げているか、その過程において起業家精神と非常に関係性の高いイノベーション理論がどのように生かされているかについて研究する。

目まぐるしく変化するグローバル経済下の東南アジアの経営環境の情報整理・分析とともに、実態把握のために約10名程度の日本人起業家(タイ、マレーシア、シンガポール)と面談する。東南アジア各国の経営環境の違うところで、どのような面で苦勞して事業を立ち上げてきたか、ビジネスチャンス、脅威を明確する。ここでは起業家の重要な要素であるイノベーションの見地から分析を行う。すなわち、イノベーション理論を使って起業家がどのようなイノベーションを起こして起業に至ったかを分析する。起業家は、どのような機会「7つの機会」(ドラッカー2007)を活かして起業に繋げているかを分析する。また、何の、どんなイノベーションを引き起こしたかについて、「5つの類型」(シュンペーター1977)を使って分類し分析する。詳細に設計された「インタビューガイド」を使った半構造化インタビューで、5Whyなどのインタビュー手法を使って詳細かつ深い内容の情報を得る。(現在、調査研究中)

